



契約業務における生成AIの業務活用実態調査2025

- 法務部門の実務と、事業部門の契約書業務を対象に -

実施目的	契約書業務における生成AI(LLM)の業務活用実態に関する調査 (法務部門、事業部門対象)
調査対象	本レポートは、自社サービスの既存顧客企業を対象に実施した、以下2種類のアンケート調査結果をもとに構成しています ・法務部門を対象とした「生成AIの業務活用実態調査」 ・事業部門を対象とした「契約書業務における生成AIの活用実態調査」
実施主体	株式会社Hubble
実施時期	2025年6月
回答者数	231名（法務部門78名、事業部門153名）
調査方法	Googleフォームによるオンライン調査（任意）

※本リリース内に掲載している一部のグラフ・図表は、Google フォーム調査結果をもとに、視認性を高める目的で

株式会社Hubble が再構成・デザイン調整を行ったものです。なお、回答内容および集計値の加工・変更は一切行っておりません。

※本調査には、独立した法務部門を設置していない企業も含まれますが、わかりやすさの観点から「法務部門」という表現を用いています。

本調査により、契約業務における生成AIの活用実態と、その期待・障壁に関する以下のような傾向が明らかになりました：

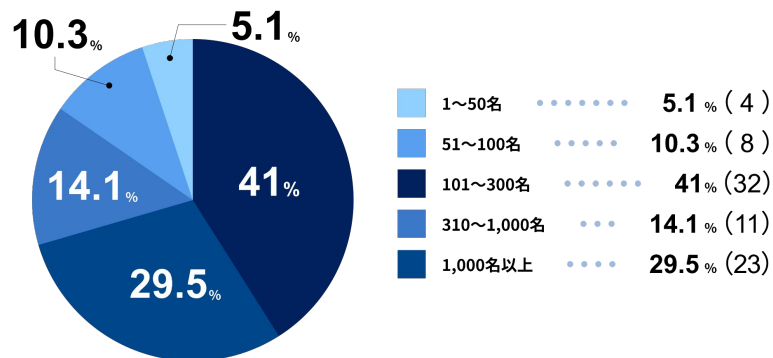
- 「法務業務で生成AIを利用したことがあるか（法務部門）」および「契約書に関する業務で生成AIを利用したことがあるか（事業部門）」という設問に対し、「利用したことがある」と回答した割合は法務部門で71.8%、事業部門で26.1%となった。(p.7)
- 8割以上が生成AIに業務支援としての期待を寄せており、法務部門においてはとくに「法的リサーチ」「メール/社内文書の下書き」「法律相談前の事前情報収集」などで活用が進んでいる。(p.11,p.13)
- 一方で、事業部門では「契約書のドラフト作成」「契約書の要約やポイント整理」「一般的な観点からのリスクチェック・論点指摘」などで活用が進む。(p.12)
- 法務部門において、生成AI導入効果を測る際に重視する指標としては、「業務の時間短縮」「業務の品質向上」「リスク検知・ミス削減」が多く挙げられた。(p.14)
- 事業部門において、生成AIの活用に特に効果を期待する業務としては、「リーガルチェック依頼時の内容の充実」「契約書の内容理解の向上」「社内のリーガル担当部門とのラリーや調整時間の削減」が多く挙げられた。(p.15)
- 活用の障壁として両部門とも、「誤情報（ハルシネーション）」「セキュリティ・情報漏洩」との回答が多く見られた。また、「社内ルールが整備されていない」「使いこなせるか不安」も比較的多く挙げられた。(p.16,17)
- 事業部門の自由記述からは、「社内リーガル方針との整合性」「生成成果の蓄積集約」などの声が挙げられた。(p.17)

- ・回答者の企業規模は「101~300名」「1,000名以上」の構成が中心。
- ・法務部門の回答者では「1人~3人構成」の小規模法務が5割超。
- ・回答者の職位は「担当者・マネージャークラス」が大半。
- ・業種は「製造業」「IT・SaaS関連企業」が半数以上を占めた。

企業規模別の構成比

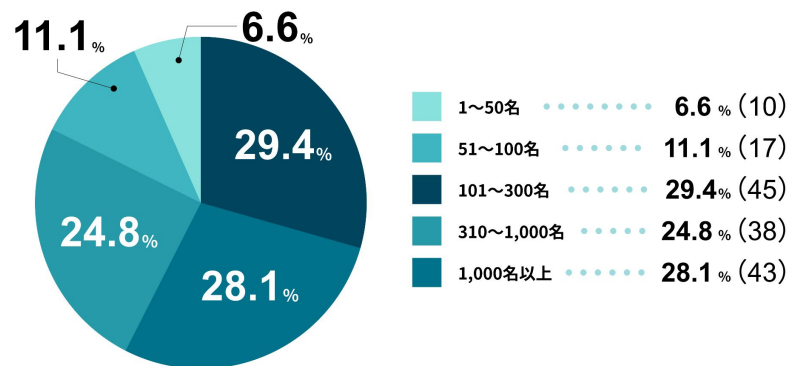
法務部門

78件の回答



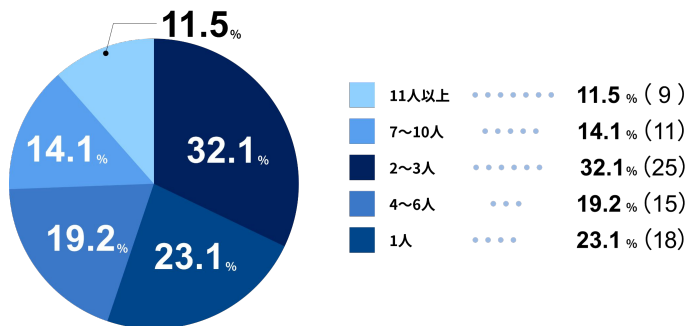
事業部門

153件の回答



法務部門の人数構成

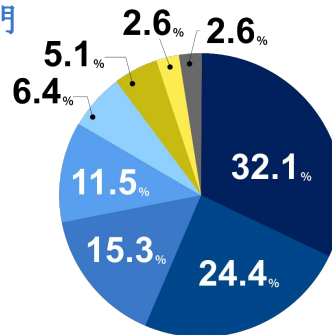
78件の回答



回答者の業種構成

法務部門

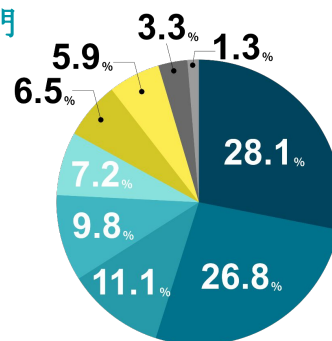
78件の回答



IT・ソフトウェア・SaaS	32.1%
製造業	24.4%
その他	15.3%
流通・小売	11.5%
メディア・通信	6.4%
サービス業 (人材・広告・コンサル等)	5.1%
不動産・建設	2.6%
卸売	2.6%

事業部門

153件の回答

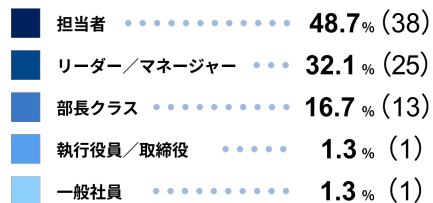
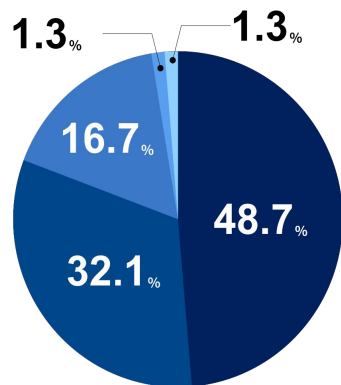


製造業	28.1%
IT・ソフトウェア・SaaS	26.8%
流通・小売	11.1%
その他	9.8%
不動産・建設	7.2%
メディア・通信	6.5%
サービス業 (人材・広告・コンサル等)	5.9%
金融・保険	3.3%
商社	1.3%

回答者の職位

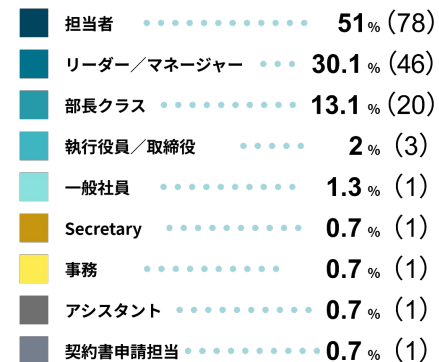
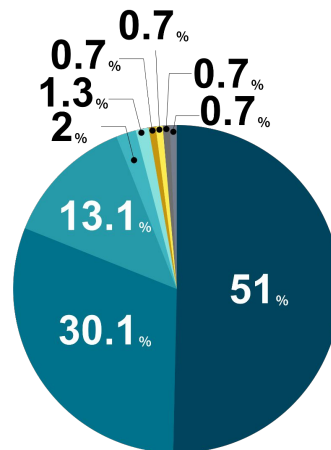
法務部門

78件の回答



事業部門

153件の回答



法務業務で生成 AI(LLM)を利用したことはありますか？

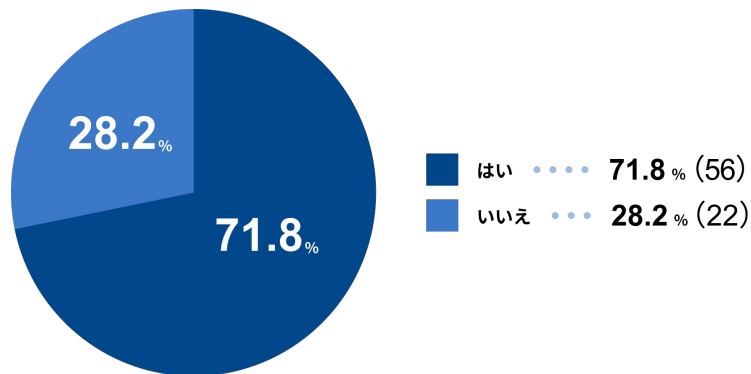
(事業部門への質問は「契約書に関する業務で生成 AI (LLM) を利用したことはありますか？」)



- ・「生成AIを利用したことがある」と回答したのは、法務部門：71.8%／事業部門：26.1%。

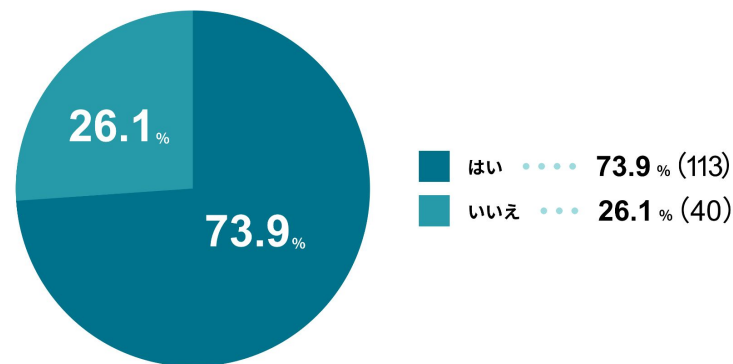
法務部門

78件の回答



事業部門

153件の回答

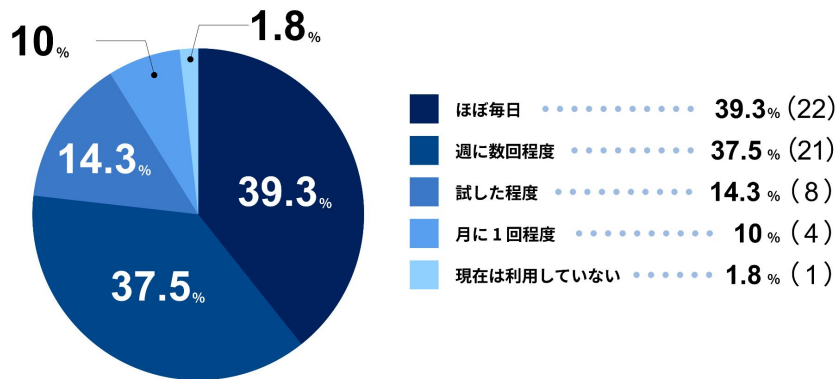


「法務業務」あるいは「契約書に関する業務」で生成AI（LLM）を利用したことが「ある」と回答した方について、どのくらいの頻度で業務に生成AIを利用していますか？

・利用経験者のうち、「週に数回以上利用」が6~7割を占め、「試した程度」も一定数あり。

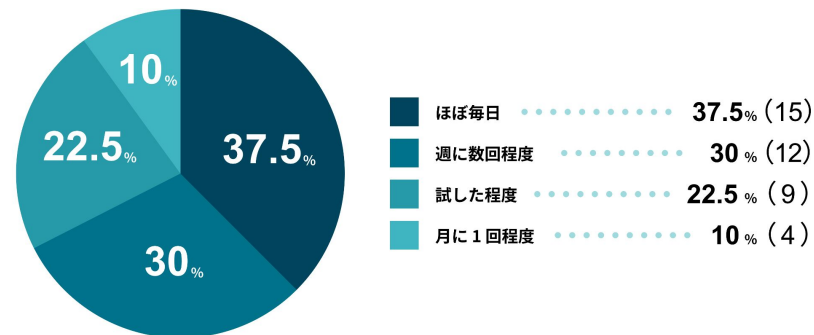
法務部門

56件の回答



事業部門

40件の回答

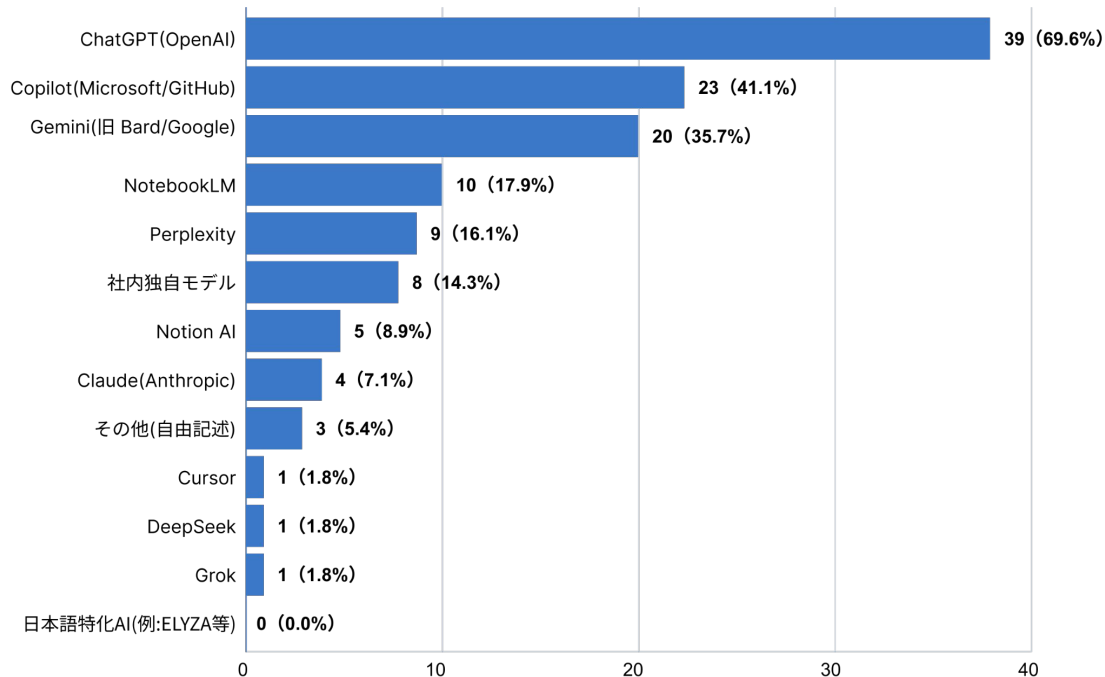


利用した生成 AI を教えてください (複数選択可)。

- 最も多く利用されているのは「ChatGPT」 (法務部門69.6%、事業部門72.5%)
- 「Copilot」「Gemini (旧Bard)」「NotebookLM」なども分散的に活用されている。

法務部門

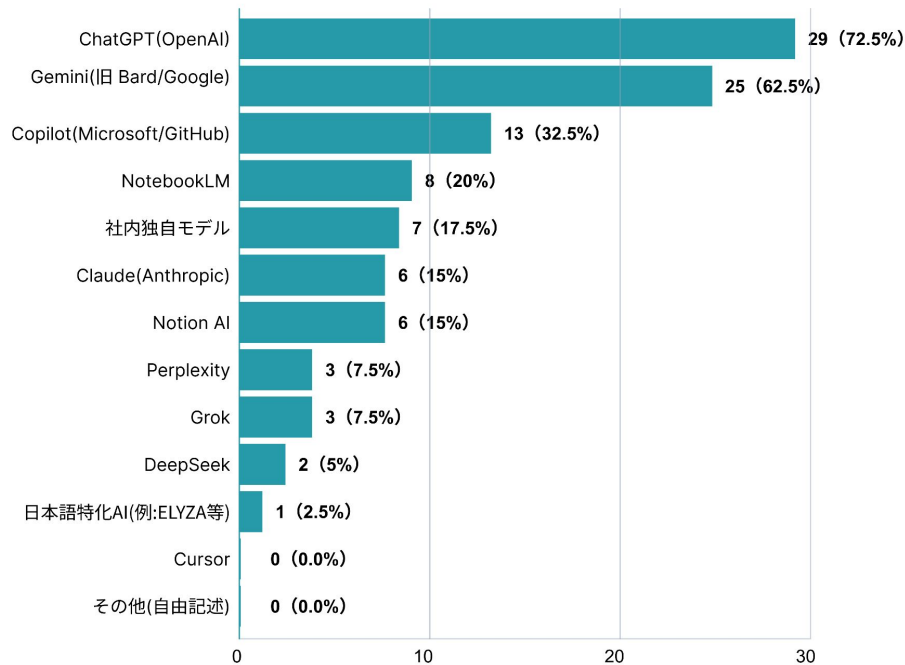
56件の回答



利用した生成 AI を教えてください (複数選択可)。

事業部門

40件の回答

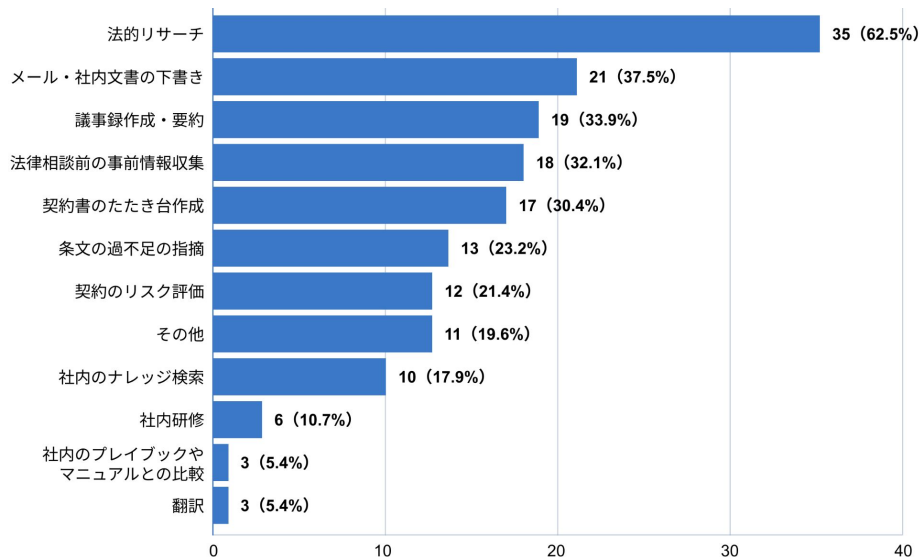


どのような業務で生成 AI を活用していますか？ (複数選択可)

- ・法務部門では「法的リサーチ」「契約書のたたき台」「要約・文書下書き」が上位。
- ・事業部門では「契約書のドラフト作成」「要約整理」「リスクチェック」など。
- ・ナレッジ検索・翻訳など間接業務での利用も見られる。

法務部門

56件の回答



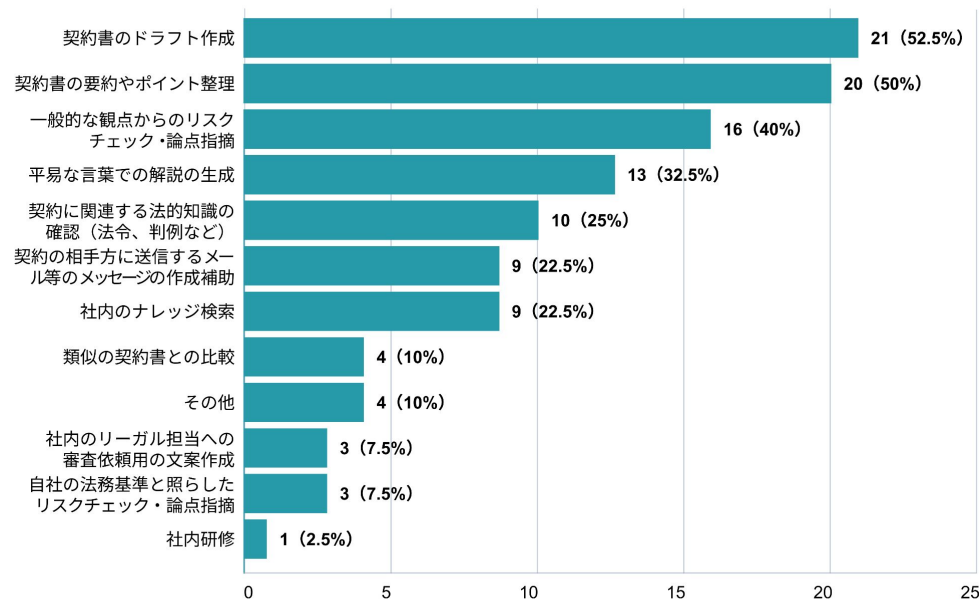
その他(自由記述)の回答一部抜粋：

SaaSサービス系の利用規約の一次レビュー / 法令の解釈等 / 条項案、条項修正案のたたき台作成 / 社外文書の下書き、企画の案出し

どのような業務で生成 AI を活用していますか？ (複数選択可)

事業部門

40件の回答



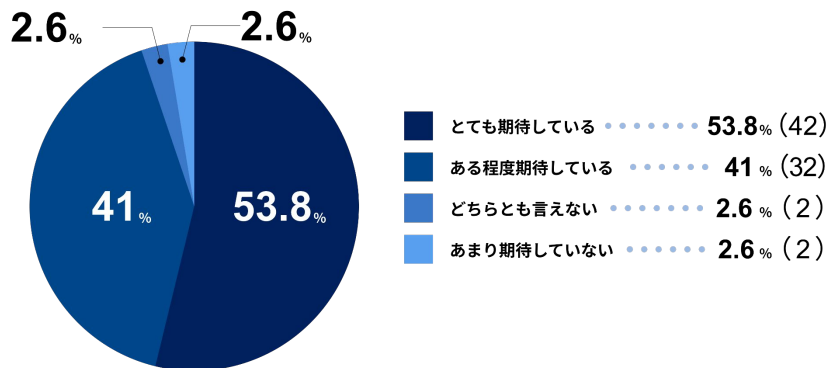
その他(自由記述)の回答一部抜粋：

メールの文章生成、資料の作成など / 英文契約書の和訳 / 通常の記事の文言選択のサジェスチョン

- ・法務部門：「とても期待」「ある程度期待」が94.8%
- ・事業部門：「とても期待」「ある程度期待」が88.9%

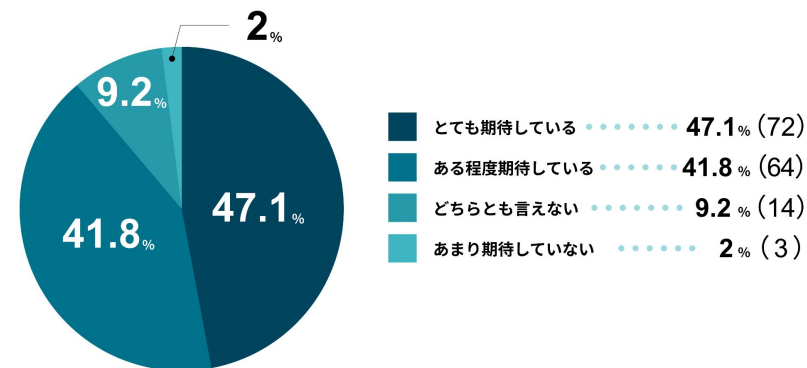
法務部門

78件の回答



事業部門

153件の回答

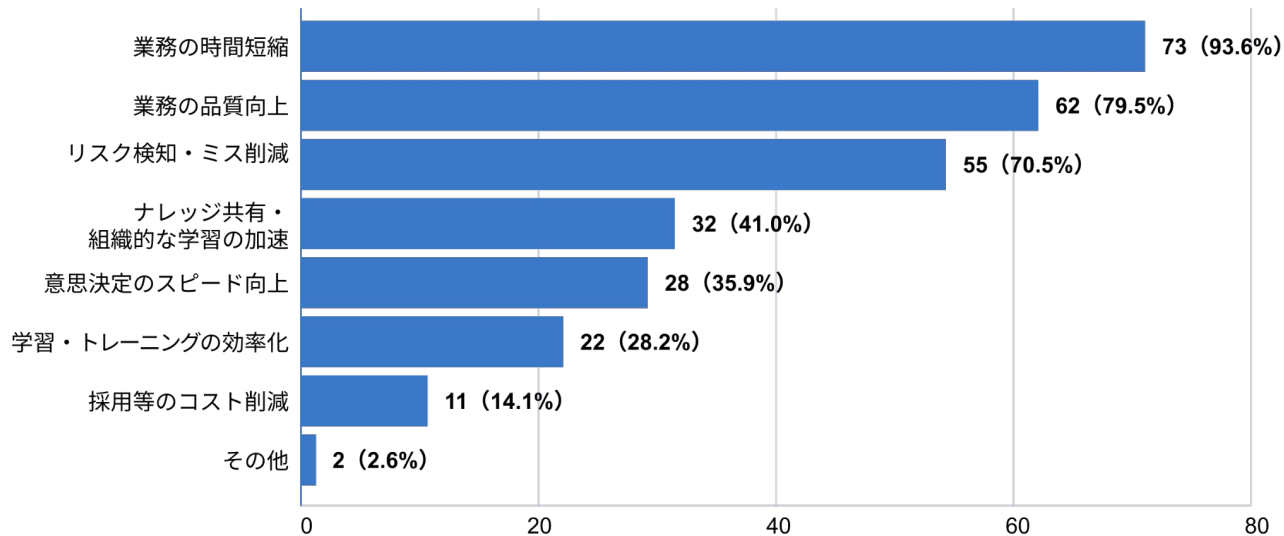


生成 AI の導入効果を測る際に重視する指標は何ですか？(複数選択可)

「業務の時間短縮」「業務の品質向上」「リスク検知・ミス削減」といった回答が上位を占める。

法務部門

78件の回答

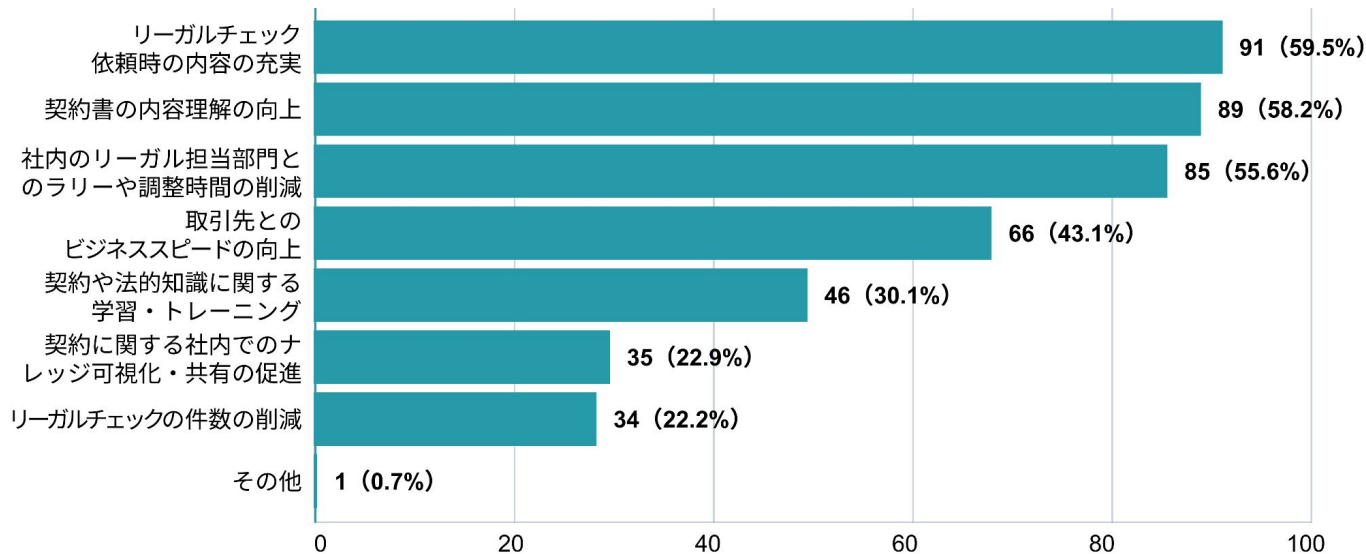


どのような業務で特に生成AI活用の効果を期待しますか？(複数選択可)

「リーガルチェック依頼時の内容の充実」「契約書の内容理解の向上」「社内のリーガル担当部門とのラリーや調整時間の削減」「取引先とのビジネススピードの向上」といった回答が上位を占める。

事業部門

153件の回答

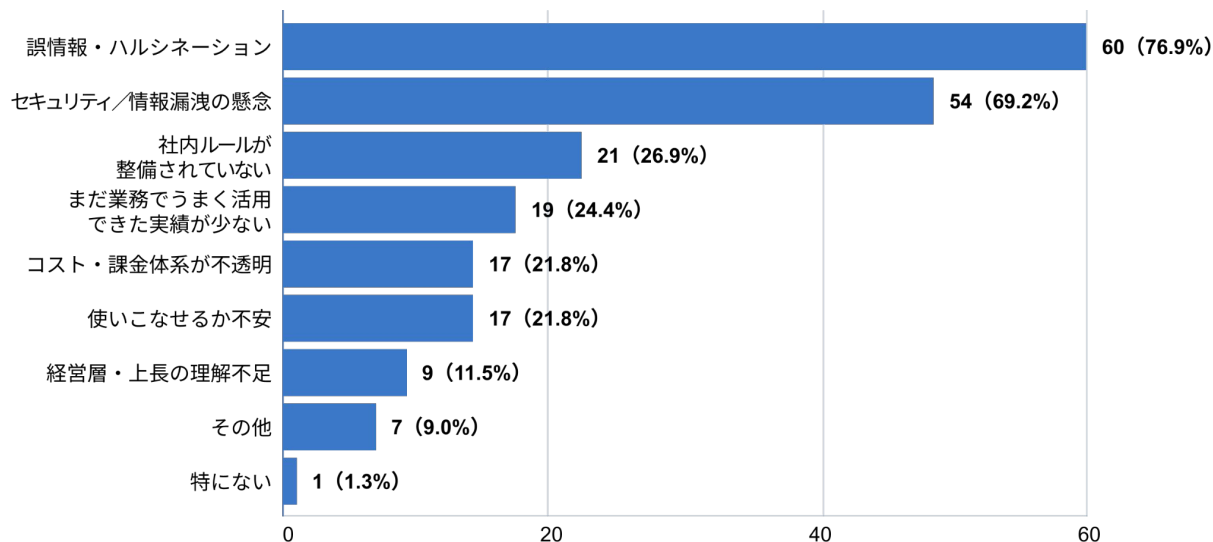


生成 AI の業務利用における不安・課題点は何ですか？(複数選択可)

- 最も多かった懸念は「誤情報（ハルシネーション）」「セキュリティ・情報漏洩」。
- 「社内ルール未整備」「業務実績不足」「使いこなせるか不安」などといった項目も挙げられている。

法務部門

78件の回答



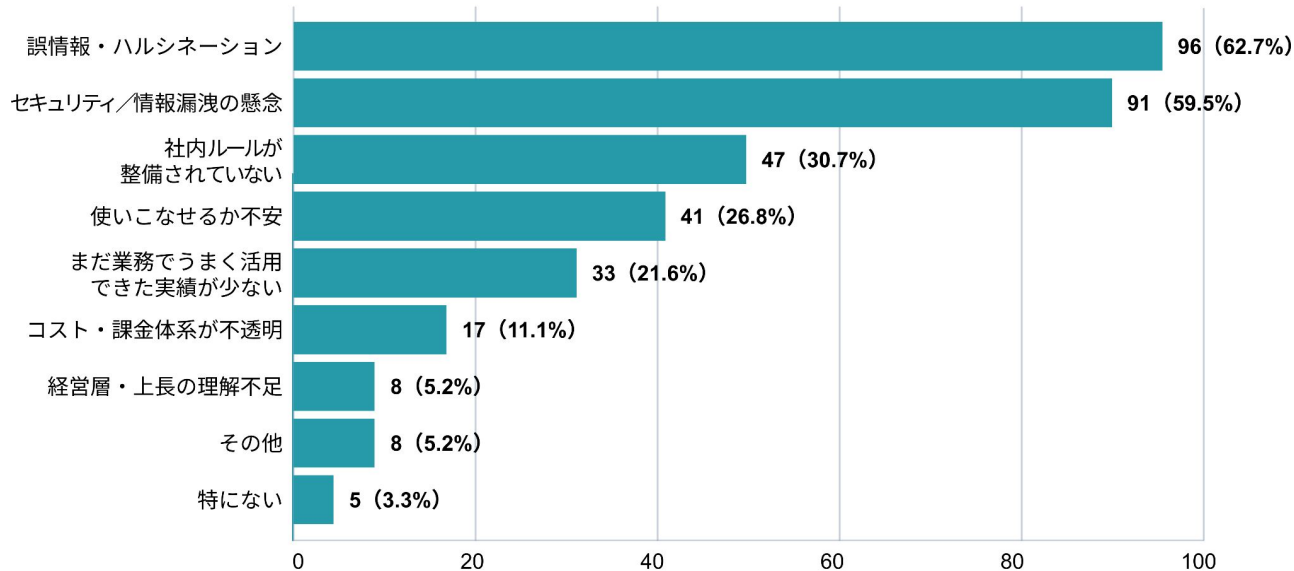
その他(自由記述)の回答一部抜粋：

生成結果の正確性 / 非弁行為 / 社内データを使えるのが会社指定のものだけであるため、活用が制限される / 適法な学習データを基にしたサービスであるかが不透明

生成 AI の業務利用における不安・課題点は何ですか？ (複数選択可)

事業部門

153件の回答



その他(自由記述)の回答一部抜粋：

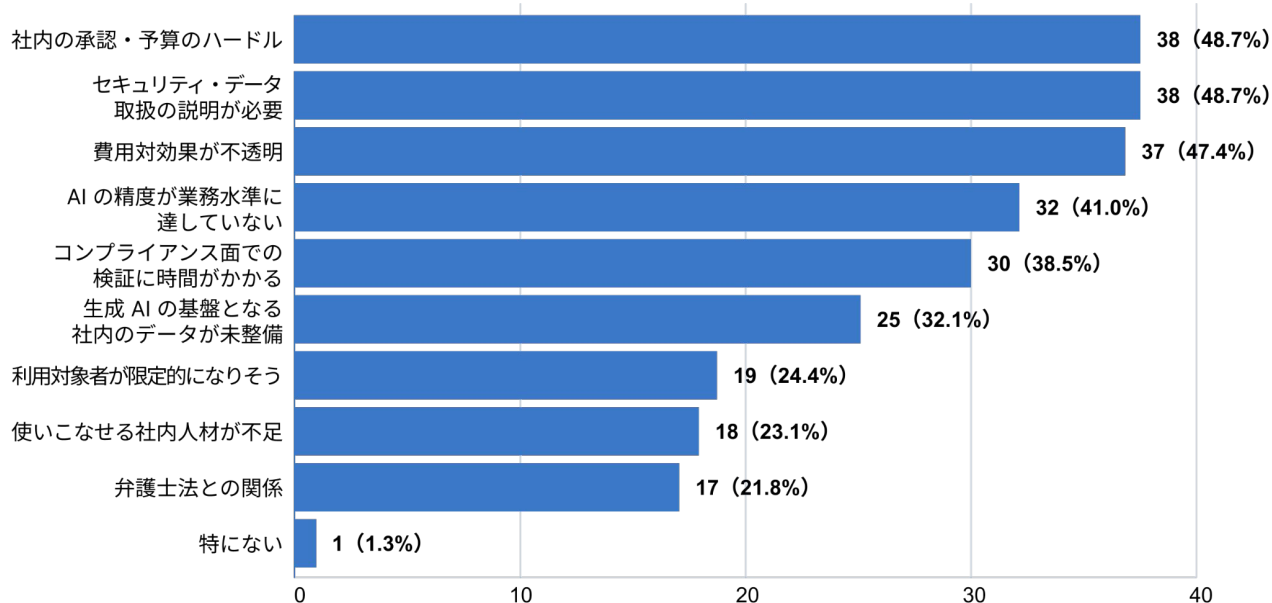
社内リーガル方針との整合性 / メンバーのリテラシーのばらつきの平準化、生成成果の蓄積集約 / 求める答えを的確に & 簡潔に答えてくれないこと / 他の業務には使用しているが、契約書案の作成には未使用

自社で生成 AI 機能を含む SaaS 製品を導入する際の懸念点は？(複数選択可)

- ・法務部門、事業部門共通して多い回答は「コンプライアンス面での検証に時間がかかる」「AI の精度が業務水準に達していない」「社内の承認・予算のハードル」「セキュリティ・データ取扱の説明が必要」「費用対効果が不透明」。
- ・法務部門では「弁護士法との関係性」といった独自の回答も。

法務部門

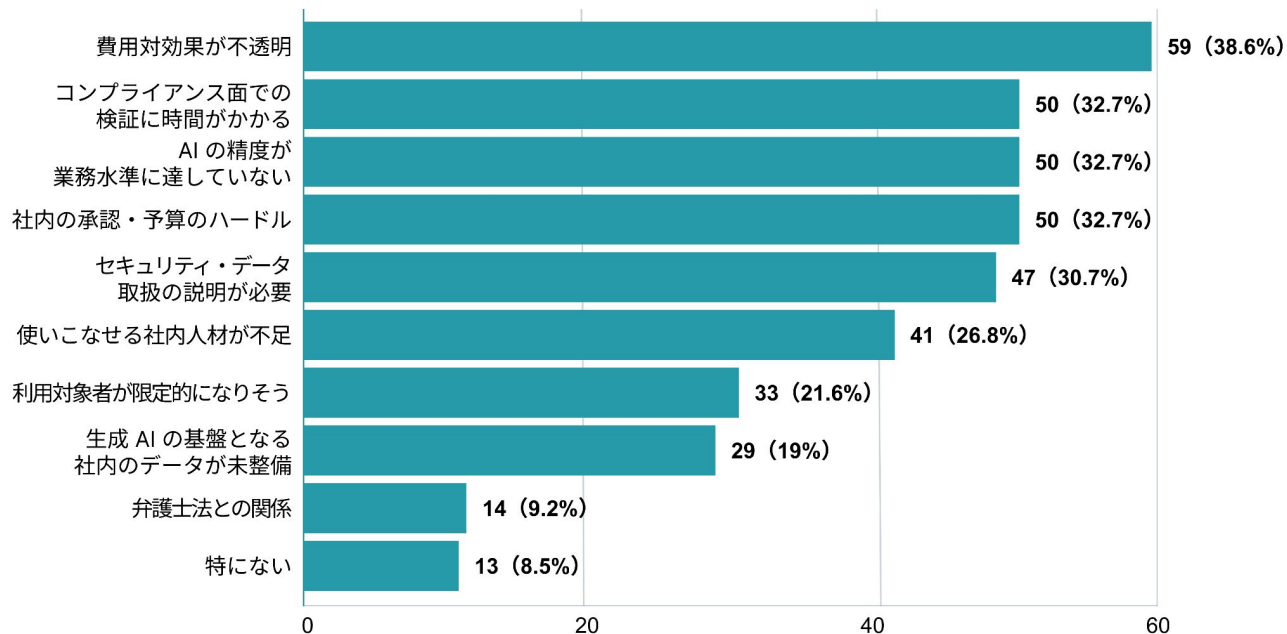
78件の回答



自社で生成 AI 機能を含む SaaS 製品を導入する際の懸念点は？(複数選択可)

事業部門

153件の回答



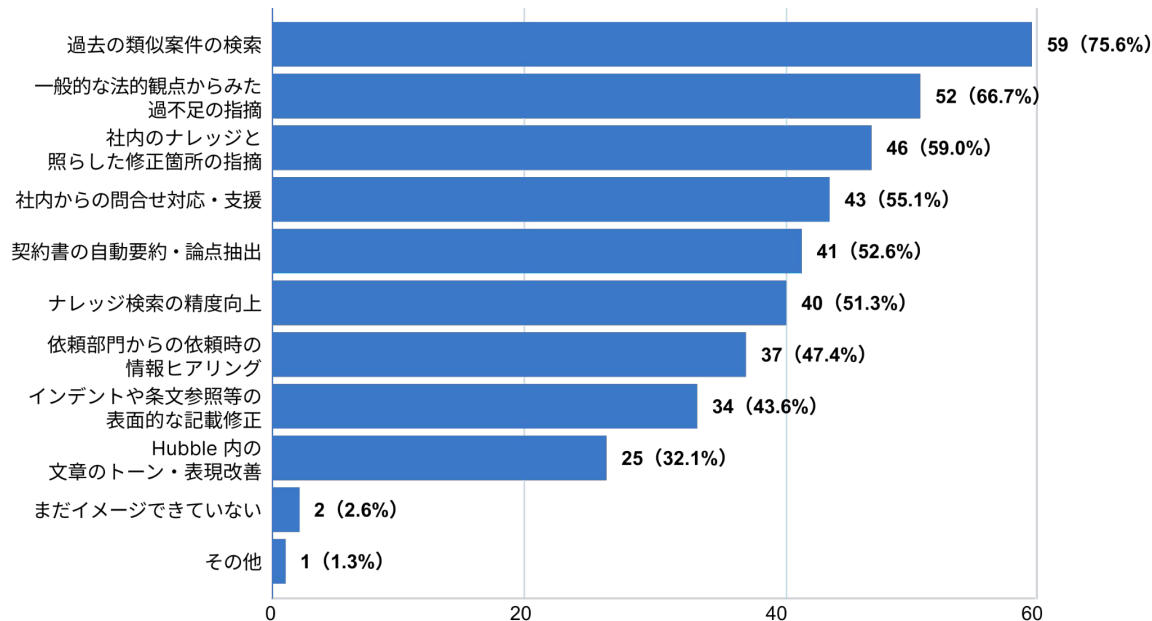
「AI機能を搭載したHubble」をご利用いただくとしたら、魅力的だと感じるポイントは何ですか？（複数選択可）



- ・法務部門で多く期待されたのは、「過去の類似案件の検索」「一般的な法的観点からみた過不足の指摘」「社内のナレッジと照らした修正箇所の指摘」。
- ・事業部門で多く期待されたのは、「契約書の内容の平易な解説、要約」「一般的な法的観点からみた過不足の指摘」「リーガルチェック依頼時の情報整理」

法務部門

78件の回答

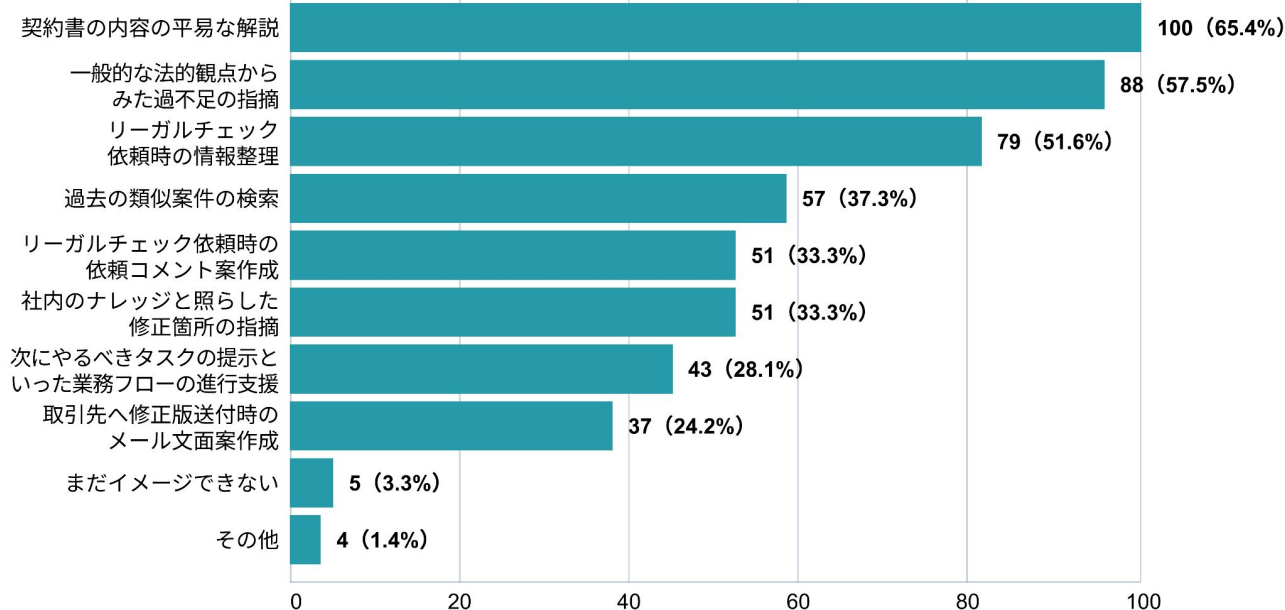


「AI 機能を搭載した Hubble」をご利用いただくとしたら、魅力的だと感じるポイントは 何ですか？（複数選択可）



事業部門

153件の回答

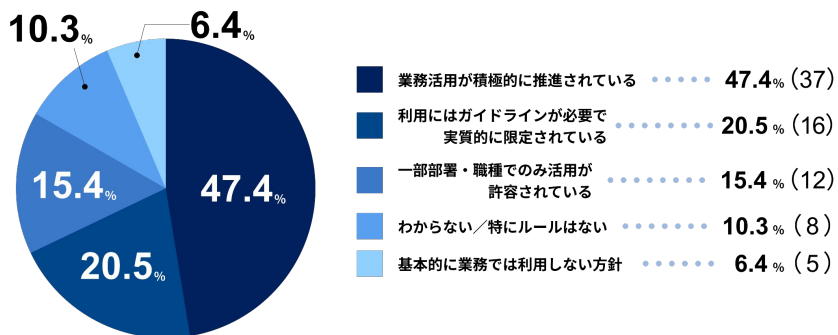


社内における生成 AI の活用に対するスタンスとして、近いものをお選びください

- ・全体として、企業のAI活用姿勢は「積極的に推進されている」「一部部署で活用されている」との回答が多数を占めた。
- ・「業務では利用しない方針」とする企業はごく少数にとどまる。

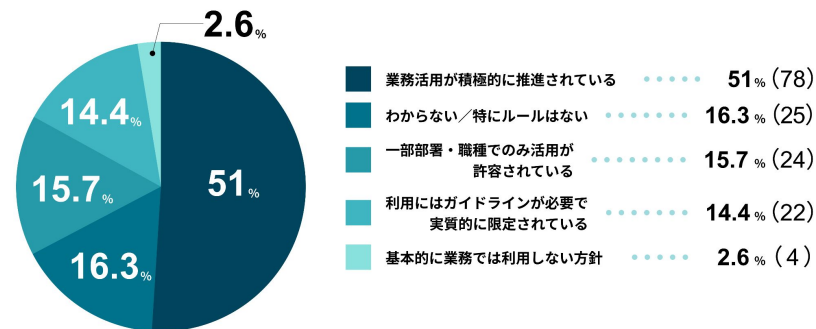
法務部門

78件の回答



事業部門

153件の回答

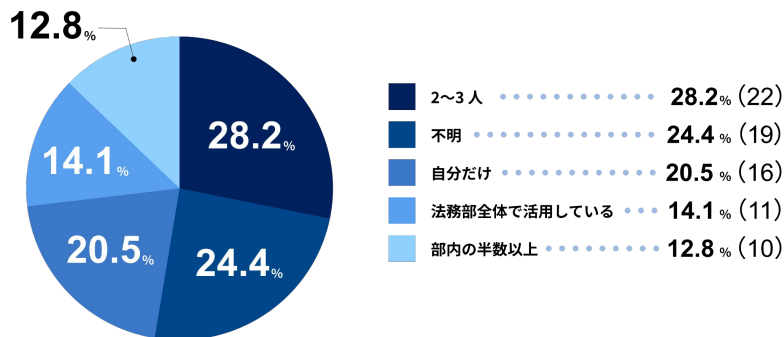


社内で AI を活用している法務担当者の数 (ご存じの範囲で)

法務部門での生成AI活用は一部メンバーによる限定的な利用が中心であり、「法務部全体での利用」との回答は14.1%にとどまる。

法務部門

78件の回答





株式会社Hubble
<https://hubble-docs.com/>